

『住んで楽しいまち よなご』

新商都 米子の創造に向けて

よなご 創造

— 楽しい日本、楽しい米子 —

21世紀に燦然と輝く地方都市をめざして。
交通の要衝としての地の利と、
豊かな自然が調和した、
誰もが「住んで楽しいまち」へ。

目次 CONTENTS

- 3) ごあいさつ
- 4) ふるさとの記憶、よなごの景色
- 6) 第2次米子市まちづくりビジョン
- 8) 歩いて楽しいまち。
- 10) 未来を育てる。
- 12) ここでしか、今でしか。
- 14) 支えあう暮らしを。
- 16) 支えに、活力に。
- 18) 米子市概要
- 19) マップ・アクセス

経済的な豊かさを実現しようと努力してきた20世紀から、癒やしや人生の楽しみなど、心の豊かさも求められる21世紀となり、都市と自然の調和した米子には大きなチャンスが巡ってきました。

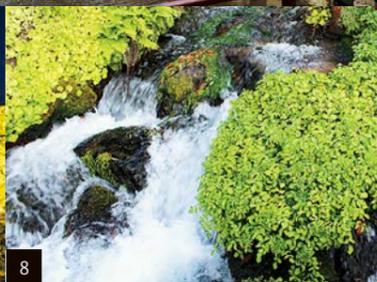
そんな米子の可能性をしっかりと引き出し、「楽しい日本」の先頭に立って発展を遂げることで、このまちに暮らす人々が人生の充実と楽しさを感じられる、そんなまちづくりを進めます。



米子市長
伊木 隆司

ふるさとの記憶、 よなごの景色

米子市は、古くから交通の要衝であったことから、ヒトやモノの行き来が盛んな地の利を生かして「商都米子」として栄えてきた歴史があります。このような土地柄に育まれた明るく開放的で、進取の精神に富む市民性を有しています。



また、周囲を山海に囲まれ、豊かな自然の原風景を残すとともに、それらを生かした特色ある風土が今も息づいています。郷土の原風景となるような、あるいは誰しもの目を捉えて離さないような、彩りと活力のある鮮やかな景色を生み出し続けています。



鳥取県 米子市

鳥取県の西部、山陰のほぼ中央に位置し、東に中国地方最高峰の「大山」、北に「日本海」、西にコハクチョウ渡来南限地でラムサール条約に登録されている「中海」という、豊かな自然環境に囲まれています。



(1) 米子城跡からの眺望 (2) 地元学生との商店街でのワークショップ (3) 米子盆踊り大会 (4) 淀江傘 (5) 皆生温泉街の夜景 (6) 加茂川沿いの白壁土蔵群 (7) 米子城跡石垣ライトアップ (8) 淀江エリアの湧き水

(9) 皆生温泉 海遊ビーチ (10) 日本海一望のインフィニティ天空露天風呂 (11) 米子駅前通りのにぎわい (12) 米子市街地夜景 (13) 日吉神社参道 (14) 白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース



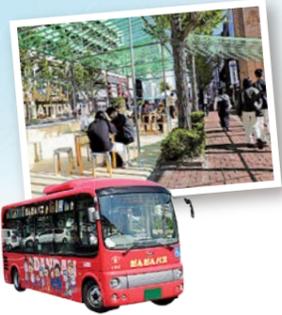
基本目標

1 交通基盤の充実と歩いて楽しいまちづくり

高速交通網の整備を進め、産業の発展をめざします。また、地域公共交通の利便性向上に取り組み、社会の高齢化に対応しながら、持続可能でまち歩きが楽しくなるような施策を実施します。

基本方向

- 広域的な交通基盤の整備
- 調和のとれた土地利用
- 米子駅周辺エリアのにぎわい創出
- 角盤町・米子港・城下町周辺エリアのにぎわい創出
- 先進技術による公共交通の効率化
- コミュニティバスの充実や路線バスの利用促進



基本目標

7 災害に強いまちづくり

地域の防災活動を支援し、災害から「逃げ遅れゼロ」をめざします。また、避難所の充実を図り、災害に強いまちを創ります。

基本方向

- 災害に強い施設・管路の整備
- 持続可能な生活排水対策の推進
- 自主防災組織の活動支援
- 消防団活動の充実
- 各種防災訓練の実施
- 空き家・空き土地対策の推進



基本目標

6 スポーツ健康まちづくり

豊かな自然と共存した米子のまちの特徴を生かし、誰もがスポーツを楽しめる環境を整えて、健康増進につなげます。また、介護予防とフレイル対策を推進し、健康寿命の延伸をめざします。

基本方向

- すべての人がスポーツに親むことのできる環境づくり
- スポーツを通じた地域の活性化
- 生活習慣病予防の推進
- 介護予防・フレイル対策の推進



基本目標

5 歴史と文化に根差したまちづくり

地域の歴史を大切に、文化財や歴史遺産を保護するとともに、その価値を後世に伝える努力をしていきます。文化や芸術活動を支援し、私たちの生活に潤いと楽しみを創ります。



基本目標

2 市民が主役・共生のまちづくり

まちづくりの主役である市民の地域活動や挑戦を支援し、関係機関との連携を強化することで、地域の福祉向上を図ります。多様な人々が活躍できる共生社会を創ります。

基本方向

- 地域福祉活動の推進
- 障がい者(児)福祉の充実
- 認知症施策の推進
- 互いの人権を尊重し合うまちづくりの推進
- 鳥取大学医学部や米子工業高等専門学校等との連携
- 誰もがデジタルの恩恵を受けられる社会の実現
- 地域医療のDX推進



基本目標

3 教育・子育てのまちづくり

子供たちの教育は未来を築くための最も重要な施策であると認識し、学校・地域・家庭で行われる教育施策の充実を図ります。また、少子化対策や子育て支援の充実にも力を入れます。

基本方向

- 子供の学び・活動拠点の充実
- 在宅育児支援の充実
- 子供の特性や発達に合わせた適切で切れ目ない支援
- 校庭芝生化の推進
- ふるさと教育の推進
- ICTの活用による授業の充実
- 少子化対策の充実
- 部活動の地域移行の支援



基本目標

4 地産外商のまちづくり

地産外商や生産性向上施策で地元企業の発展を支援します。これにより賃上げの原資を作り、地域の経済基盤を強化します。また、新しい時代に対応できる人材の育成にも力を入れ、持続可能な経済成長をめざします。

基本方向

- 県外・海外マーケットへの進出支援
- 成長産業の育成と新産業の創出
- 企業誘致の推進
- 雇用創出と人材確保
- 皆生温泉のまちづくり
- 地域資源を活用した観光マネタイズ施策の推進
- ナイトタイムエコノミーの創出
- 次世代につなぐ農業の推進



第2次米子市 まちづくりビジョン 住んで楽しい まち よなご ～新商都 米子の 創造に向けて～

歩いて楽しいまち。

よなごの交通・インフラ

充実した公共交通インフラを生かしつつ、社会の高齢化に対応し、持続可能でまち歩きが楽しめるような施策を進めます。

山陰の玄関口・東アジアのゲートウェイ

「米子駅」を中心とする鉄道網や、高速道路(米子道、山陰道)、国道などの道路網が整備されています。また山陰唯一の国際定期航空路線を持つ米子空港を有するとともに、日本海側拠点港を有する境港市と隣接しており、陸・海・空における優れたアクセス環境から、山陰の交通の要衝となっています。



米子駅
周辺エリア



米子駅南北自由通路(がいなロード)

「米子駅」

山陰鉄道発祥の地の歴史を誇る駅であり、人・物交流の拠点であるとともに、2023年度に開通した南北自由通路「がいなロード」による更なる機能強化がなされるなど、まちの賑わい創出の中心地です。

にぎわい エリア



「ウォーカブルの推進」

「車」だけの生活から「公共交通・歩く」という選択を増やし、人々が集い・憩い・多様な活動を繰り広げられるまちづくりを推進します。



「路線バス コミュニティバス」

路線バスのみならず、地域循環バスやコミュニティバスの再編、利用促進、キャッシュレス化等に取り組んでおり、多様な移動ニーズに応えます。



「米子アリーナ」

2027年にオープン予定の山陰最大級のスポーツ拠点施設です。メインアリーナは4,000人以上を収容可能で、スポーツ利用だけでなく、コンサートなどの文化活動など、新たな賑わい創出が期待されています。



自動運転レベル4を活用した 地域公共交通の環境改善

2025年度に開始した実証実験を経て、レベル4(特定条件下における完全自動運転)の実装をめざし、社会受容性の向上を図りながら、まちなかや郊外のコミュニティバス、さらには路線バス等への段階的実装に取り組んでいます。

先進技術の導入により、バス運行事業者の運転手不足や交通事故の削減など、公共交通を取り巻く環境改善を図ります。



安心して子供を
生み育てられる支援

すべての子供たちの最大限の成長をめざした教育に取り組み、未来のまちづくりを担う子供たちが、心豊かにのびのびと育つまちをめざします。

未来を育てる。



学校給食

豊かな自然環境が育んだ地産食材をふんだんに使用し、成長期の子供たちの心身を育みます。また、旬の食材や郷土料理に触れることで、食への関心を高め、郷土愛を深める「食育」を推進します。

次代を担う子供たちの教育こそ、最も重要な施策です。豊かな自然環境を存分に生かし、学校や地域、家庭を通じて行われる教育の充実と、少子化対策、子育て支援の充実を図ります。

よなごの教育・子育て



コミュニティスクール

学校と地域の協働で子供たちを育み、学校や子供たち、家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決します。



自然の中での子育て環境

山と海、水鳥の生息地や砂浜といった豊かな自然環境のなかで、子供たちは、草木の香りや風の音、土の感触によって五感を豊かに刺激され、好奇心や創造力を育みます。



充実した保育環境

保育所等入所待機児童は、4年連続ゼロを達成。乳幼児健診(6カ月児、1歳6カ月児、3歳児)により、乳幼児の健康状態をサポートするとともに、米子市独自の「5歳児よなごこ健診」で子供の特性や発達に合わせた適切で切れ目のない支援を行います。また、こども総合相談窓口や子育て支援センターも設置し、「一人でも悩まない」環境づくりを行っています。

広々とした公園で駆け回る

だれもが遊べるみんなの遊具、外周をジョギングできる1ヘクタールの芝生広場など、屋外で思いきり体を動かすことができる環境があります。子供たちは、のびのびと基礎体力やバランス感覚などを育みます。



ぶらっとホーム

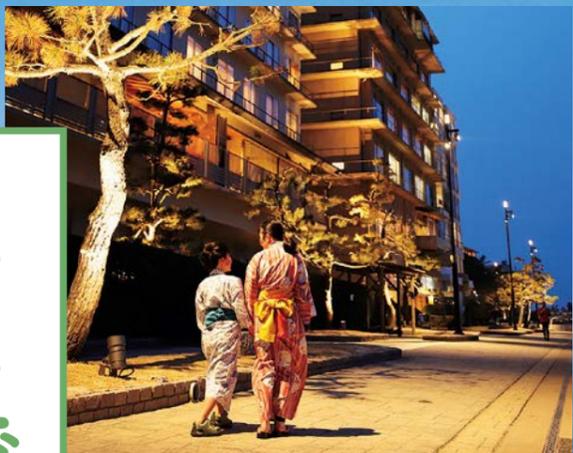
近年、全国的にも、不登校の子供が増える傾向にあります。どのような社会情勢にあっても、子供たちが学びの機会を得られるようにするため、自宅や学校以外の居場所として通える新しい学び場を設置しました。



Column
02

学校校庭の芝生化

市内の学校のグラウンドを、順次、芝生化しています。校庭を芝生にすることで、身体への衝撃軽減や、照り返しによる温度抑制、砂埃での目や喉へのダメージ軽減効果があり、子供たちの健全な発達につながります。また、芝生は、本市の弓浜エリアに存在する遊休農地にて生産されていることから、子育て環境整備のみならず、耕作放棄地対策と産業振興といった多面的な効果を生み出しています。何より、休み時間になると芝生に向かって飛び出していく子供たちの姿は、当地の宝です。



かいけおんせん 皆生温泉

全国的にも珍しい、「海に湯が湧く」温泉で、潮風を感じながらの湯三昧が楽しめます。開発から100年の歴史を持ち、米子の奥座敷と呼ばれる山陰有数の温泉地です。

泉質は「塩の湯」であり、高い保温力からタラソテラピー効果が実感できます。

白砂青松の 弓ヶ浜サイクリングコース

砂浜や松林の中を走り、海越しに大山を眺めることができる風光明媚なサイクリングコースです。傾斜もほとんどなく、気軽にゆったりとサイクリングやジョギング、ウォーキングを楽しむことができます。



全日本トライアスロン 皆生大会

皆生は日本トライアスロン発祥の地。おおらかな日本海の青と雄大な大山の緑、そして、皆生大会自慢の数千名もの地元ボランティアの熱いサポートが、日本トライアスロンの原点です。



米子市伝統芸能 認定制度

担い手の減少や高齢化等から起こる、伝統芸能を未来に継承していくための課題に対応するため創設した、本市の独自制度です。長年にわたり地域に受け継がれてきた伝統芸能を認定し、将来に向けた地域の文化の保存に取り組みます。



米子がいな祭

方言で「大きい」を意味する「がいな」の名前がつけられた市民あげの夏祭り。

がいな万灯・がいな太鼓・やんちゃYOSAKOIなど出し物も豊富に、中海を色とりどりに染めながら夜空を焦がす大花火大会が、米子の一番熱い日を締めくくります。



ここでもしか、今でもしか。

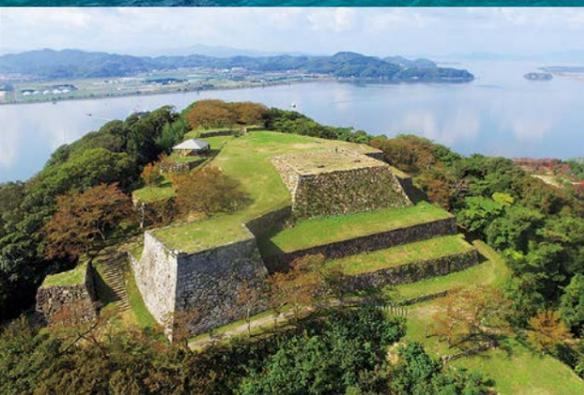
よなごの観光・文化

豊かな自然や、地域に根差した文化がよく残り、それらを生かした取組が盛んです。地域の誇りを守り、活用していきます。



米子城跡

米子市の中心地、標高90メートルの湊山に築かれた米子城。当時の建造物は失われましたが、石垣や礎石などは形態をよくとどめ、地域のランドマークとして親しまれています。また、西伯耆を一望できる天守跡からの眺望は絶景です。



Column
03

日本最強の絶景！ ダイヤモンド大山

2022年元日に放送されたNHK「日本最強の城スペシャル第10弾 ～一度は行きたい絶景の城～」において注目された米子城跡からの絶景の数々。その中でも、大山の山頂部から日が昇るダイヤモンド大山は、2月20日頃と10月22日頃の気象条件のいいときにしか見られない絶景です。まるで後光が差したかのような大山から、一直線に届く陽光に包まれた米子城は、筆舌に尽くしがたいほどの美しさと神々しさを見せてくれます。

支えあう暮らしを。

よなごの安心・安全

〔鳥取大学医学部附属病院〕

山陰における医療の中核を担う重要な存在です。特定機能病院として、がんや難病などの高度・先進的な医療を提供し、地域の「最後の砦」としての役割を果たしています。ドクターヘリの運用や災害拠点病院としての機能も備え、救急医療や災害時においても住民の命を守る基盤となっています。



日々の暮らしの根幹となる安心と安全。それらを支える都市機能や地域活動を支援していきます。

〔フレイル対策の推進〕

健康な状態と介護が必要な状態の間を「フレイル」と言い、多くのかたは「フレイル」状態を経て要介護になるとも言われています。ずっと元気に、日々の米子での生活をいきいきと楽しんでいただくために、市内3ヶ所にあるフレイル対策拠点と公民館を活用した運動体験や、アプリを活用した健康管理など、様々なフレイル対策に取り組んでいます。



〔充実した医療・介護環境〕

市内に4つの大規模病院があるほか、産婦人科や小児科などの診療所も多数集積しています。医療施設数、医療人材数は、人口10万人当たりの全国平均を大きく上回り、充実したサービスが提供されています。また、介護施設数も人口10万人当たりの全国平均を上回り、ほぼすべての種類の介護サービス事業所・施設が整備されています。



〔地域防災力の強化〕

各種防災訓練に取り組むとともに、地域の消防団、自主防災組織等の活動を支援します。また、雨水排水対策事業の促進や、上下水道施設の耐震改修等に取り組めます。



医療DXによる医療資源の活用



デジタルを活用して、誰もがずっと元気で健康に暮らせるまちづくりをめざし、医療DXを推進しています。

地域内の病院で共通して使用できるデジタル診察券や統合カルテ、転院調整や空床管理システムを開発、展開し、限られた医療資源を有効に活用することで、本市の強みである充実した医療が、将来にわたって持続可能となる体制の構築をめざします。

〔よなごの水〕

TVCMなどで話題となった、大江山麓の豊かな自然が育む水。米子の水は、その大山や日野川流域の恩恵を受けた地下水を水源としており、おいしさや含有するミネラル分、供給量は全国的にも評価されています。



支えに、活力に。

よなごの地域・産業

大江山麓が育むおいしい水や、その水を生かした農産品はじめ、豊かな自然環境や地域特性を生かした様々な産業、地域活動が盛んになされています。

〔米子を支える地域産業〕



白ねぎ



大山どり



二十世紀なし

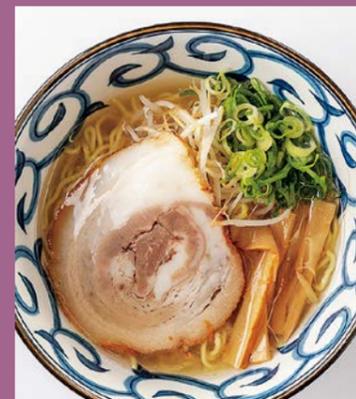


海鮮・干物

🍴 米子自慢のグルメ 🍜



475(よなご)パフェ



牛骨ラーメン



さばしゃぶ

〔地域に残る伝統文化〕

伝統芸能や地域行事など、多くの伝統文化が地域の方々の尽力により残っています。今日の米子らしさを形作る重要な要素です。



〔県内・海外マーケットへの進出〕

韓国、香港、台湾等の東アジアのゲートウェイ機能を生かすとともに、EC(電子商取引)の活用による海外・県外マーケットへの販路拡大の取組を支援します。



Column 法勝寺川 水辺の楽校

子供たちが身近に、かつ安心、安全に水辺に親しむ水辺空間を地域につくるべく、地域が主体となり、市、国に呼びかけ2024年に誕生したのが「法勝寺川 水辺の楽校」です。水辺で遊び、憩うとともに、環境学習に取り組むことができ、地域の活性化を図る場として、様々な利用がされています。

米子市概要

◆ 地勢と人口

- 【総面積】132.42km²
- 【人口】人口:143,261人
男:68,353人
女:74,908人
- 【世帯数】69,232世帯
※2025年8月31日時点



市の花: ツツジ
市内のあちこちで咲き誇り、ゴールデンウィークには「つつじ祭り」も開催されます。



市の鳥: コハクチョウ
米子市にある米子水鳥公園は、西日本最大のコハクチョウの集団越冬地で、毎年約1000羽のコハクチョウが越冬しています。

◆ 沿革

市の大半は平坦な地形で、東にある標高751.4メートルの孝霊山とそれに連なる大山の山すそ、また南部に標高100メートル程度の山が点在する程度です。その一帯には、大山や中国山地に源を発する日野川のほか、法勝寺川、佐陀川、宇田川などが流れ、日本海へと注いでいます。
そして、道路、鉄道、空港などの利便性も高く、古くから地域の交通結節点・宿泊拠点、人の行き来が盛んな「山陰の商都」として栄えてきました。そのため、米子市民は明るく開放的で、外からの移住者を快く受け入れる気質があります。



◆ よなごのあゆみ

- 1927 (昭和2)年 ●旧米子町と近隣の村などが合併し、「米子市」が発足
- 1928 (昭和3)年 ●伯備線が全線開通
- 1950 (昭和25)年 ●米子鉄道管理局が開局
- 1951 (昭和26)年 ●商店街で全国に先がけ、土曜夜市が開始
- 1954 (昭和29)年 ●米子空港が開港
- 1958 (昭和33)年 ●米子市公会堂が完成
- 1974 (昭和49)年 ●第1回米子がいな祭を開催
- 1981 (昭和56)年 ●第1回皆生トリアスロン大会を開催
- 1982 (昭和57)年 ●米子市役所の新庁舎(現在の庁舎)が完成
- 1985 (昭和60)年 ●鳥取県でわかとり国体が開催
- 1989 (平成元年) ●米子自動車道の米子-江府間が開通
- 1991 (平成3)年 ●上淀廃寺跡から国内最古級の彩色仏教壁画が出土
- 1995 (平成7)年 ●米子水鳥公園が完成
- 1997 (平成9)年 ●山陰・夢みなと博覧会が境港市で開催
●妻木晩田遺跡の全面保存が決定
- 2000 (平成12)年 ●鳥取県西部地震が発生
- 2001 (平成13)年 ●山陰初の国際定期便「米子-ソウル便」が就航
- 2005 (平成17)年 ●旧米子市と旧淀江町が合併、新「米子市」発足
●中海がラムサール条約湿地に登録
- 2006 (平成18)年 ●米子城跡が国史跡に指定
- 2013 (平成25)年 ●市立図書館、市美術館がリニューアル
- 2014 (平成26)年 ●市公会堂リニューアルオープン
- 2015 (平成27)年 ●第二学校給食センター稼働および中学校給食開始

- 2016 (平成28)年 ●「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産に認定
- 2017 (平成29)年 ●水道局新庁舎完成
- 2018 (平成30)年 ●こども総合相談窓口の開設
- 2020 (令和2)年 ●白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコース全線開通
●全小中学校普通教室への空調設備設置完了
- 2021 (令和3)年 ●市道安倍三柳線(1工区)と和田町と崎津を結ぶ「和崎かけはし通り」が開通
●旧湊山球場が史跡米子城跡三の丸として国史跡に追加指定
- 2022 (令和4)年 ●淀江どんぐり子ども園開園
●「脱炭素先行地域」に選定
●ふれあいの里総合相談支援センター「えしこに」開設
●教育支援センター～ぶらっとホーム～開所
- 2023 (令和5)年 ●がいなロード開通。米子駅新駅舎の開業
●都市整備部が靴町庁舎へ移転。県税事務所が市本庁舎へ移転し、県市連携による新たな行政体制を構築
- 2024 (令和6)年 ●尾高城跡が国史跡に指定
●天の真名井水車小屋修復完了
●米子市法勝寺川河川敷に「水辺の楽校」開校
●米子市伝統芸能の認定制度創設。「米子がいな太鼓」「米子歌舞伎」を認定



米子市へのアクセス

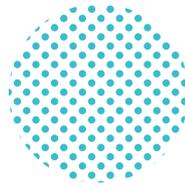
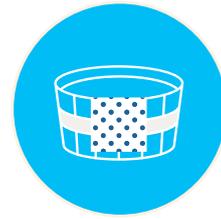
電車でのアクセス			高速バスでのアクセス		
東京	新幹線 (約3時間20分)	岡山	特急やくも (約2時間)	東京	約11時間
東京	寝台特急サンライズ出雲 (約11時間)	岡山	特急やくも (約2時間)	名古屋	約7時間
名古屋	新幹線 (約2時間)	岡山	特急やくも (約2時間)	大阪	約3時間35分
新大阪	新幹線 (約40分)	岡山	特急やくも (約2時間)	京都	約4時間30分
広島	新幹線 (約50分)	岡山	特急やくも (約2時間)	神戸	約3時間20分
福岡	新幹線 (約2時間)	岡山	特急やくも (約2時間)	岡山	約2時間30分
岡山	特急やくも (約2時間)	岡山	特急やくも (約2時間)	広島	約3時間30分

飛行機でのアクセス		自動車でのアクセス	
東京	全日空 (約1時間20分)	吹田I.C.	中国自動車道～米子自動車道経由 (約3時間)
ソウル	エアソウル (約1時間40分)	岡山I.C.	岡山自動車道～米子自動車道経由 (約2時間)
台湾	タイガーエア台湾 (約2～3時間30分)	広島I.C.	松江自動車道～山陰自動車道経由 (約3時間)
		出雲I.C.	山陰道経由 (約1時間)

※発行日現在



YONAGO MAP



【発行・企画】米子市総合政策部総合政策課

〒683-8686 鳥取県米子市加茂町一丁目1番地

TEL: 0859-23-5355 FAX: 0859-23-5392

Mail: sougouseisaku@city.yonago.lg.jp



公式HP



インスタグラム

発行：2026年1月